

特集2

平成4年度に新設・改組された学科等

教育学研究科日本語教育学専攻（博士課程）

の新設について

教育学部 言語学講座 細田和雅

国立大学唯一の博士課程

大学院博士課程日本語教育学専攻が教育学部に設置され、去る四月二十四日、最初の入学式が行われた。盛大な祝賀行事が田中隆荘学長をはじめ、たくさんの方の来賓を迎えて、行われた。

日本語教育学科は昭和六十一年度に新設され、平成二年度には日本語教育学専攻修士課程も設置された。学年進行に伴い、滞ることなく、学部、修士、博士を一貫する課程が完成したことになる。これは国立大学では、わが国唯一のものであり、大きな期待と注目が寄せられている。

日本語学習者の急激な増加に伴って、本学ではかねてから、外国人留学生を積極的に受け入れ、日本語教育の充実を図り、日本語教員の養成に努め、国家のニーズに添えてきた。しかし、最近の海外からの日本語教員派遣要

祝賀 日本語教育研究科に課程設置



祝辞を述べる田中隆荘学長

請や、外国人日本語教員のための現職教育に対する強い期待に込めるためには、更に、日本語教育の高度な研究能力を備えた指導的教員を組織的に養成することが緊急の課題となっている。

日本語学習者の急増は、また、学習者の多様化をもたらした。そのため従来の日本語教育の内容と方法に対しても多様化が求められる結果になっている。今回の後期課程の新設は、そうした要請に添えるものでもある。

学際性ゆたかな課程

後期課程では、学部および前期課程で開設している四大講座（日本語教育学・日本語学・言語学・日本文学）に対応する内容をカリキュラムの骨子としている。各大講座には、講座所属の全教官が共同して行う「統合科目」を設け、学際性ゆたかな高度の専門家の養成を目指している。また、全教官がそれぞれ「特殊演習」を開講し、専門領域の深化を図っている。学位論文の作成指導を主目的とする「研究指導」も絶えず開設している。

以上を基盤に、①国内外における日本語教育の指導的・中核的役割を果たす高度な日本語教員を養成すること、②国内外における日本語教員の養成に携わる高度な研究能力を備えた専門家を養成すること、③地域的に西日本のみならず全国的にも指導的な日本語教員養成の拠点としての重責をはたすこと、④日本語教育学・日本語学・言語学・日本文学の各領域間の相互交流を通して、新しい学際的領域を創出し、またそうした能力を有する専門家を養成することを目指す。

博士号の実現、三年後か

日本語教育学専攻の学生定員は、前期課程十二名、後期課程六名である。今年度は、七名（外国人留学生二名を含む）の入学者を得